

平成 21 年度～23 年度 習志野市事務事業評価表

1. 事務事業基本情報

事業名	No.60 食育の推進事業			担当課	こども保育課			予算費目名	款 03	項 02	目 03
事業概要 及び目的	幼児が実際に食物に触れる場を設定し、「食」に対し興味や関心を持たせるようにする。また、幼児期の「食」に実際に携わる教職員や保護者を対象に基礎知識を習得するための研修を行う			成果指標 参加する施設（公立幼稚園・保育所・こども園及び私立幼稚園・保育園等）合計 35 か所	年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度		
					予算額（単位：円）	—	—	—	—		
					決算額（単位：円）	—	—	—	—		
					従事職員数	8	8	36	—		
事業の 位置づけ	章 1	豊かな人間性と暖かさを育むまち		★左記施策（号）との結び付き 児童だけでなく、保護者と職員も心のつながりの大切さを知ることになる。 人に対する感謝の心、豊かな心の育ちにつながる。 日々の教育、保育の指導の基本である、心の教育につながると考える。	従事延べ日数	8	8	52	—		
	節 1	豊かな人間性を育む教育の推進			民間活力の導入	現状は？：□実現している □将来可能性はある ■将来困難だが可能性はある □余地なし					
	項 2	次代をひらく学校教育の充実				相手は？：■市民 ■市民活動団体 □企業・学校等					
	号 1	幼児期における教育・保育の充実				形態は？：委託など					

2. 進捗状況

				平成 21 年 7 月 24 日記入					平成 22 年 6 月 4 日記入					平成 22 年 4 月 15 日記入					
年度	21 年度評価（20 年度実施した事項についての評価）				22 年度評価（21 年度実施した事項についての評価）				23 年度評価（22 年度実施した事項についての評価）										
実施計画上の予定	実施	実施計画の予定 年度終了後	実施	★継続している事項、 未着手事項がある理由	実施計画 上の予定	実施	実施計画の予定 年度終了後	実施	★継続している事項、 未着手事項がある理由	実施計画 上の予定	実施	実施計画の予定 年度終了後	実施	★継続している事項、 未着手事項がある理由					
完了した事項	<ul style="list-style-type: none"> ・私立幼稚園・保育園に、泥つき葉つきにんじんを配布し、掘りたてのにんじんに触れる場を企画、実施 ・地域の農家の方の援助により、児童が植え付け、育ち、収穫までの体験のできる企画、実施 ・味噌づくりを通して、日本の伝統的な食材を知ると共に、出来るまでの期待と出来た喜びを児童だけでなく、保護者も共に体験、感動を共有できる企画、実施 ・児童だけでなく保護者と共に収穫体験をし、喜びと感動を共有できる企画、実施 				<ul style="list-style-type: none"> ・食育をテーマにした管理職研修 ・キャロット計画の中で、私立幼稚園・保育園に近隣農家の畑からの掘りたてのにんじんに触れる企画、実施 ・近隣農家の方の支援により、広大な畑からの収穫体験の企画、実施 ・身近な日本の伝統食品である「味噌」づくりの企画、実施 ・子どもセンターや公民館における、乳幼児を持つ保護者に対する「食」に関する講習を実施 				<ul style="list-style-type: none"> ・今後、幼稚園や保育所の保護者だけでなく、一般家庭への拡大をしていくために、子どもセンターや公民館活動を利用し、拡大していく。 				<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育所・こども園の教諭及び保育士を対象とし食育理論研修を実施 ・キャロット計画のとおりくみの中で、近隣農家の協力を得て掘りたての葉つきにんじんに触れる体験と畑での収穫体験の実施 ・伝統的な食品に関心をもたせることを目的とした「味噌」づくり体験 ・子どもセンター及び公民館での乳幼児を持つ保護者への「食」に関する講習会の実施 ・一般家庭向けに食に関するホームページ開設 ・一般家庭への食育の実施拡大 						
継続している 事項	・				・一般家庭の保護者の実施拡大				・										
未着手事項	・				・教職員、保育士への「食育」に関する研修				・										
改善案					成果指標				成果指標				成果指標						
					実績値 13か所				達成率 37%				実績値 17か所				達成率 49%		

3. 今後の方向性

				※課内協議を経て管理職が記入してください。	平成 21 年 7 月 24 日協議					平成 22 年 6 月 4 日協議実施					平成 22 年 4 月 15 日協議実施
今後の方向性	*根拠欄は、なぜその「成果の方向性」を選んだか？なぜその「コストの方向性」をえらんだか？別紙「評価の視点」を参照してください。	成果の方向性	拡充						○						
		現状維持													
		コストの方向性	休廃止	縮小	現状維持	拡充									
		★上記を選択した根拠 幼児期における食育教育については、心の教育につながることから、専門家だけでなく保護者等からも強く望まれているところであるため、拡充していきたい。コスト面については、関係機関等と協働して、現状維持を図りたい。				★上記を選択した根拠 幼児期における食育教育については、心の教育につながることから、専門家だけでなく保護者等からも強く望まれているところであるため、拡充していきたい。コスト面については、関係機関等と協働して、現状維持を図りたい。				★上記を選択した根拠 幼児期における食育教育については、心の教育につながることから、専門家だけでなく保護者等からも強く望まれているところであるため、拡充していきたい。コスト面については、関係機関等と協働して、現状維持を図りたい。					
方向性を実現するため実施すること（改革案）	保護者と共に実施する食育体験の企画・農協や地域の農業士や地元住民の援助と共に実施する食育体験企画				保護者と共に実施する食育体験の企画・農協や地域の農業士や地元住民の援助と共に実施する食育体験企画				保護者と共に実施する食育体験の企画・農協や地域の農業士、地元住民の援助と共に実施する食育体験企画						
前年度改革案の実施状況	□実施 □一部実施 □検討中 □その他 ★実施以外は具体的に記載してください。				■実施 □一部実施 □検討中 □その他 ★実施以外は具体的に記載してください。				■実施 □一部実施 □検討中 □その他 ★実施以外は具体的に記載してください。						